



おだのぶなが あけちみつひで
織田信長は、なぜ明智光秀に殺されたの



信長が光秀の面目を傷つけたから、光秀の領地を
取り上げたからなど、いろいろな説があるんだよ。

1582年6月2日の明け方、京都の本能寺に泊まっていた織田信長は、家臣の明智光秀の軍に攻められて、自殺しました。光秀がなぜ、信長を殺そうと考えたのかについては、古くからいろいろな説があります。

武士の面目を傷つけた信長に、うらみをもったからか

信長には、光秀が命令に従わず、口答えをしたときに、かみの毛をつかんで突き飛ばし、手討ちにしようとしたという話や、光秀のちょっとした発言におこって、ほかの人々がいる前で頭をなぐった、という話が残っています。武士の面目を傷つけられた光秀が、信長にうらみをもち、復しゅうした、という説です。

信長が、光秀の領地を取り上げたからか

信長が光秀に、中国地方への出陣を命令したとき、光秀の領地の丹波(京都府)を取り上げる代わりに、出雲・石見(島根県)をあたえよう、といました。出雲・石見は、まだ毛利氏の領地だったので、もし毛利氏を討つことに失敗したら、光秀は領地がなくなってしまいます。この信長の冷たいあつかいが、信長を殺す動機になった、という説です。

そのほかにも、いろいろな説がある

上の2説以外にも、光秀はもともと、天下を取る野望をもっていたから、秀吉の出世の速さに、あせりを感じていたから、人質にされていた光秀の母が信長のせいで殺されてしまったから、などの説があります。